

# 家計調査報告（家計収支編）

～平成20年平均家計調査（速報）結果の概況～（総務省）

## I 家計収支の概要

### 〈総世帯の家計〉

#### (1) 消費支出は実質で1.7%の減少

平成20年の総世帯（注1）（平均世帯人員2.52人，世帯主の平均年齢55.6歳）の消費支出は，1世帯当たり1か月平均261,306円で，前年に比べ名目0.1%の減少となった。また，物価変動を除いた実質では1.7%の減少となった。

総世帯のうち二人以上の世帯（平均世帯人員3.13人，世帯主の平均年齢55.7歳）の消費支出は，1世帯当たり1か月平均296,932円で，前年に比べ名目0.3%の減少，実質1.9%の減少となった。また，単身世帯（平均年齢55.5歳）の消費支出は，1世帯当たり1か月平均171,602円で，前年に比べ名目1.4%の増加，実質0.2%の減少となった。

総世帯について消費支出の推移をみると，平成13年（-2.0%），14年（-0.1%），15年（-1.0%）と3年連続して実質減少となったが，16年（0.5%）は実質増加となった。平成17年（-0.1%），18年（-3.5%）は再び実質減少となり，19年（1.2%）は，実質増加となった。平成20年は，交際費などの「その他の消費支出」，食料，住居などの支出が減少したことから，実質1.7%の減少となった。

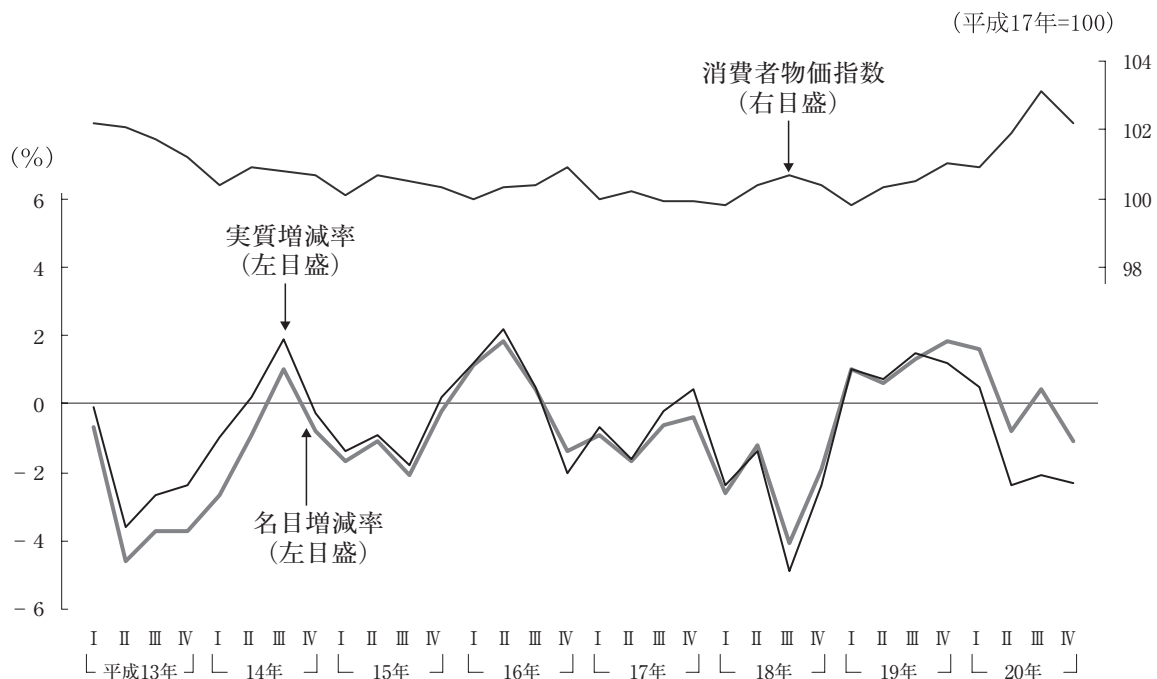
※（注1）総世帯とは，「二人以上の世帯」と「単身世帯」を合わせた世帯をいう。

平成20年は，原油価格の高騰などにより消費者物価が7～9月期をピークに上昇し，9月には世界的な金融危機が発生した。

そこで，平成20年の動きを四半期別にみると，1～3月期は，住居，暖冬だった前年の反動で，春物衣料の販売が不振だった被服及び履物の支出が減少したものの，光熱・水道の支出が増加したことなどから，前年同期に比べ実質0.5%の増加となった。4～6月期は，交際費などの「その他の消費支出」，食料の支出が減少したほか，前年の夏のバーゲンセールが6月末から前倒しして実施されたことの反動で被服及び履物の支出が減少したことなどから，実質2.4%の減少となった。7～9月期は，エアコンディショナなどの家庭用耐久財，テレビなどの教養娯楽用耐久財などの支出が増加したものの，交際費などの「その他の消費支出」，食料，光熱・水道などの支出が減少したことなどから，実質2.1%の減少となった。10～12月期は，住居やテレビ，パーソナルコンピュータなどの教養娯楽用耐久財などの支出が増加したものの，交際費などの「その他の消費支出」，灯油などの光熱・水道，食料，他の入院料（注2）などの保健医療などの支出が減少したことなどから，実質2.3%の減少となった（図1）。

※（注2）「他の入院料」とは，「出産入院料」以外の入院料をいう。

図1 消費支出の四半期別対前年同期増減率の推移（総世帯）



(注) 1. 消費者物価指数は、「持家の帰属家賃を除く総合」である。  
 2. Iは1～3月期、IIは4～6月期、IIIは7～9月期、IVは10～12月期を表す。

(2) 交際費などの「その他の消費支出」、食料などが実質減少

総世帯の消費支出を費目別にみると、交際費などの「その他の消費支出」、食料などが減に大きく寄与している。また、費目別の内訳をみると、次のような特徴がみられる。

ア 食料は60,583円で、名目1.0%の増加、実質1.6%の減少となった。果物や外食などが実質増加となったものの、中国産冷凍ぎょうざが原因と疑われる健康被害の発生の影響を受けた調理食品が実質減少となったほか、魚介類、価格が上昇したパンなどの穀類などが実質減少となったため、全体として実質減少となった。

イ 住居は18,930円で、名目1.9%の減少、実質2.3%の減少となった。設備修繕・維持及び家賃地代が共に実質減少となった。

ウ 光熱・水道は19,418円で、名目4.8%の増加、実質1.1%の減少となった。電気代が実質増加となったものの、原油価格高騰の影響などにより灯油などの「他の光熱」が実質減少となったほか、上下水道料などが実質減少となったため、全体として実質減少となった。

エ 家具・家事用品は8,319円で、名目0.1%の増加、実質0.4%の増加となった。寝具類などが実質減少となったものの、電気洗濯機、エアコンディショナなどの家庭用耐久財などが実質増加となったため、全体として実質増加となった。

オ 被服及び履物は11,175円で、名目1.8%の減少、実質2.3%の減少となった。シャツ・セーター類のほか、和服、洋服などが実質減少となった。

カ 保健医療は10,790円で、名目2.3%の減少、実質2.0%の減少となった。保健医療用品・器具などが実質増加となったものの、保健医療サービスが実質減少となったため、全体として実質減少となった。

キ 交通・通信は34,201円で、名目2.0%の増加、実質で前年と同水準となった。交通が実質減少となったものの、自動車等関係費が実質増加となったほか、携帯電話通信料などの通信が実質増加となったため、全体として前年と同水準となった。

ク 教育は9,111円で、名目0.6%の減少、実質で1.3%の減少となった。

ケ 教養娯楽は28,359円で、名目で前年と同水準、実質0.5%の増加となった。パック旅行費などの教養娯楽サービスなどが実質減少となったものの、テレビ、パーソナルコンピュータなどの教養娯楽用耐久財などが実質増加となったため、全体として実質増加となった。

コ その他の消費支出（注3）は60,418円で、名目2.5%の減少、実質4.0%の減少となった。諸雑費が実質増加となったものの、交際費（注3）などが実質減少となったため、全体として実質減少となった。

※（注3）「その他の消費支出」及び交際費の増減率の実質化には、消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）を用いた。

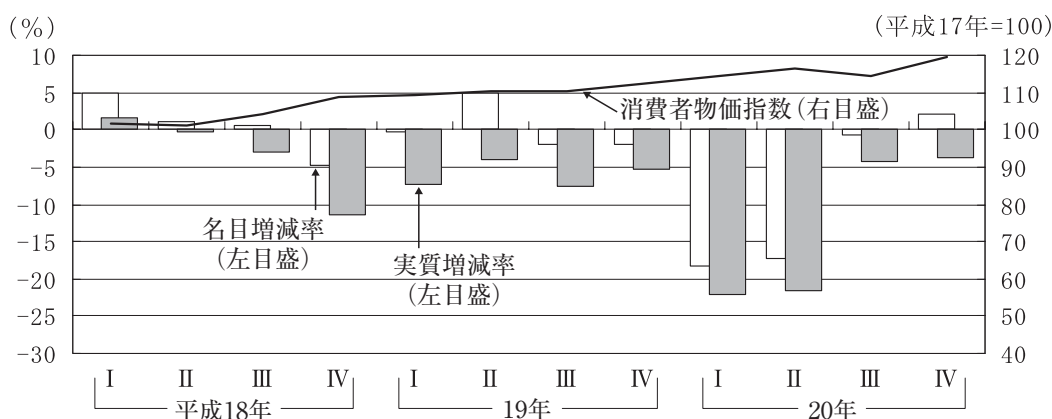
## Ⅱ 最近の家計消費の動向（二人以上の世帯）

### 〈注目された食料品の動き〉

#### (1) 冷凍調理食品

冷凍調理食品は、平成20年1月末に中国産冷凍ぎょうざが原因と疑われる健康被害の発生が大きく報道されたことなどから、20年1～3月期以降は大幅な実質減少となっており、18年4～6月期以降、11期連続の実質減少となっている。冷凍調理食品の日別支出金額をみると、平成20年1月末から6月までは前年の水準を下回って推移した。平成20年7月以降は前年との差が縮小してきている（図2）。

図2 冷凍調理食品の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移（二人以上の世帯）



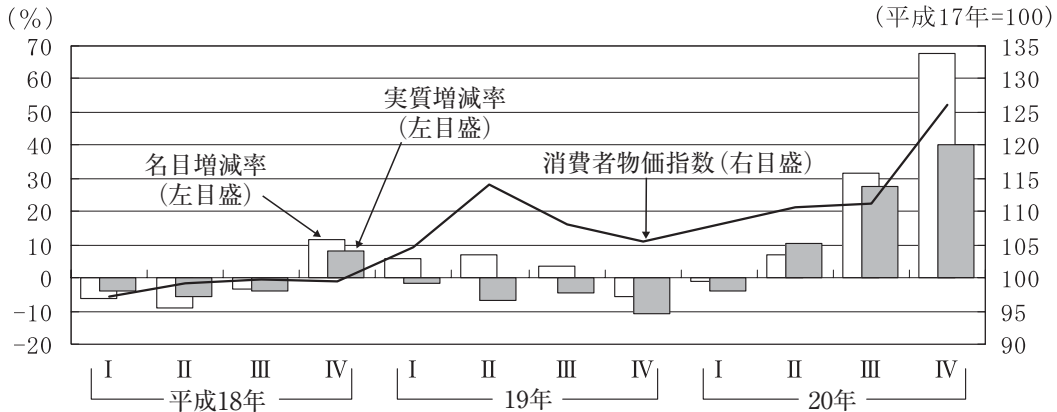
	平成18年				平成19年				平成20年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
名目増減率(%)	4.9	1.1	0.7	-4.7	-0.2	4.8	-2.1	-2.0	-18.4	-17.3	-0.6	2.2
実質増減率(%)	1.7	-0.1	-3.0	-11.3	-7.2	-3.9	-7.6	-5.3	-22.1	-21.5	-4.3	-3.8
消費者物価指数変化率(%)	3.1	1.2	3.8	7.5	7.5	9.0	6.0	3.5	4.8	5.4	3.9	6.2

（注）冷凍調理食品の増減率の実質化には、消費者物価指数（冷凍調理コロッケ及び冷凍調理ハンバーグの加重平均）を用いた。

(2) バナナ

バナナは、平成20年4～6月期以降は3期連続して大幅な実質増加となっている。バナナの日別支出金額をみると、平成20年8月以降は前年の水準を大きく上回って推移している。バナナに関するダイエット番組がテレビ放送された平成20年9月19日は15.58円であったが、翌日には20.30円に増加し、その後も前年に比べ高い水準で推移している（図3）。

図3 バナナの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移（二人以上の世帯）



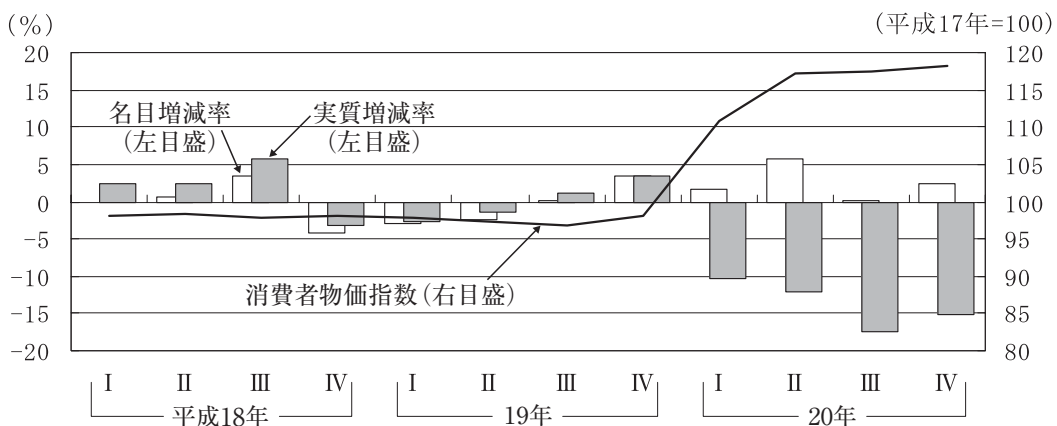
	平成18年				平成19年				平成20年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
名目増減率 (%)	-6.3	-9.0	-3.6	11.4	5.9	7.0	3.3	-5.4	-0.8	6.8	31.8	67.8
実質増減率 (%)	-3.7	-5.9	-3.9	7.9	-1.5	-7.0	-4.5	-10.9	-4.0	10.1	27.8	40.4
消費者物価指数変化率 (%)	-2.7	-3.3	0.3	3.2	7.5	15.1	8.2	6.2	3.3	-3.0	3.1	19.5

（注）バナナの増減率の実質化には、消費者物価指数（バナナ）を用いた。

(3) カップめん

カップめんは、平成20年1～3月期以降は価格が上昇していることなどから、前年同期に比べ4期連続の実質減少となっている（図4）。

図4 カップめんの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移（二人以上の世帯）



	平成18年				平成19年				平成20年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
名目増減率 (%)	0.0	0.7	3.5	-4.3	-3.0	-2.3	0.1	3.5	1.6	5.8	0.1	2.4
実質増減率 (%)	2.5	2.5	5.8	-3.1	-2.6	-1.4	1.1	3.5	-10.4	-12.0	-17.4	-15.1
消費者物価指数変化率 (%)	-2.4	-1.8	-2.2	-1.2	-0.4	-0.9	-1.0	0.0	13.4	20.2	21.2	20.6

（注）カップめんの増減率の実質化には、消費者物価指数（即席めん）を用いた。